

# むぎの郷

October 2012

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会  
〒640-8301 和歌山市岩橋643  
TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430  
<http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、  
住民の手によって育てられる

はぐるま共同作業所・和の杜・ラ・テル・麦の郷居住福祉事業所  
くろしお作業所・くろしお作業所分場・麦ピース  
ソーシャルファームピネル・麦の郷印刷・けいじん舎  
こじか園・こじか親子教室・第二こじか園  
障害者生活支援センター(紀の川・岩出市/和歌山市)  
麦の郷高齢者地域生活支援センター・麦の郷総合支援センター  
麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所



わされん  
「運動会」



和歌山生活支援センター/つれもて  
「秋津野ガルテンー泊レクリエーション」



はぐるま共同作業所「結い」  
「登山」



ハートフルハウス創  
「堺市での講演会」



## 私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1). 私たちは、障害のある人のあらゆるライフステージにおいて権利保障(発達保障・労働保障・生活保障など)をめざします。
- 2). 私たちは、障害のある人や支援の必要な子どもから高齢者までの要求の実現をめざします。
- 3). 私たちは、地域住民と地域社会に依拠し、支えられそして支える地域づくりをめざします。
- 4). 私たちは、日本国憲法の理念を守り、発展させ、平和な社会づくりをめざします。さらに、障害者権利条約など国際的な到達点を指針とした実践、運動、研究をめざします。

# 『わされん全国大会』

「どうしたいの？」そんな疑問が投げかけられながら、子どもたちの新しい福祉制度が、今年4月から始まりました。

「障害者自立支援法」に対する全国的な反対運動により、子どもに関する分野は「児童福祉法」にまとめられました。また、障害を持つ子どもたちばかりでなく、保育所／園への「子ども・子育て新システム」は広く子どもたちの発達保障を阻害し、公的責任の放棄でもあり、保育所／園での障害児保育はどうなるのか？と不安をかきたてるのに拍車をかけています。

私たちは障害をもつ子どもたちの療育を通して、子どもたちの豊かな成長・発達とは何なのか？子どもたちに集団が必要なものはなげなのか？ 今回の改正児童福祉法で保障されているのか？ 子どもたちの姿から、疑問を膨れあがらせています。

先般、ひと足先に相談支援事業を実施している事業所の研修に参加した職員によると、実際に行ってみて気付いた点として、

●今まで関わったことのない人には、相談支援事業所自体を知らない人が多く、利用者が相談支援事業所を選ぶ判断材料が少ない。  
●事業所だけではアセスメントが十分にできず、利用者を知る関係機関に協力を依頼することもある。

●制度の浸透に時間がかかる。  
と、いったことがあげられるようです。  
このことをこれから実施される子ども分野にあってはめてみる。

○保護者が支援計画を立ててもらうために、全く初めての事業所に自分で足を運ぶには、ハードルが高くないか。  
○利用につながるまでには時間がかからないか。  
○子どもにとって必要且つ十分な、そして平等な支援計画になるか。

○事業所内での作業を受け持つ人的配置は十分なのか。

○自治体間での格差は生じないか。  
○子どもの育ちに対する公的責任の所在は？

まだ始まっていない相談支援事業ですが、療育システムに子どもの姿が浮かんできません。3年先の施行におけ和歌山市も準備が始まっています。一方、県内に目を転じると、障保連(障害児保育運動連絡会)の加盟団体のある自治体の考え方にも格差が生じる可能性があります。知らないうちに・・・ということのないよう進んでいきたいと思っています。(高山)

## わされん全国大会を 振り返る

紀の川・岩出生活支援センター

思い返せば8年半前。理事長から「宇都宮に行って本場の餃子を食べへんか？」というのでちよつとしゃべってくれるか？」と言われ、「はい。行きます！」と即答。それが、メインレポーターとして8年に及びレポート発表の始まりとは知らずに…。

第28回全国大会からはじまった分科会の取り組みは、メインレポーターとゲストレポーターが毎年テーマに添ってレポートを発表し、積み重ねることでテーマについて検証していくというもの。そうとも知らずに引き受けたわたしは、

1日目は、わされん会長・米川徳昭氏より障害者運動の歴史の話から始まり、教育権保障から労働権保障へ、共同作業所誕生・共同作業所連絡会の誕生、当時リヤカーで廃品回収をしながら地域を回っていた話はとても印象に残っています。運動の重要性を強く話されていました。目標を持ちながらも、閑雲野鶴の心情で頑張っていた。というお話して、とても感銘を受けました。

立命館大学大学院社会学研究科の深谷弘和氏は、作業所職員のメンタルヘルスについて、福祉労働者の「貧困」やバーンアウトの状態、メンタルヘルスに対応していくための方法(ストレスに気付く、休息する、気分転換する、日常生活を整える、手ごたえを持つ)を話されています。

メンタルヘルスはみんなの問題で、育ちあう職場づくり、これまでの実践と運動の蓄積の上で新たな専門性の確立、職員間のゆるやかな連帯、当事者・職員・家族・地域住



民との協同を話されていきました。  
きょうさん理事・鈴木栄作氏からは、運動が産み出した宝である「真3K」  
“障害者権利条約、基本合意、骨格提言”に触れ、わたし達がめざすものは何ですか？と問いかけがあり、「自分だったら？」という気持ちを持ち、そこから矛盾を感じる事が大切であると言われてました。5年10年先の自分・なにか。事業所の未来へ希望を持って、運動の継承と発展をしていきたいと思います。  
わされん副会長・山田博章氏は障害者虐待防止と私たちの仕事について、「障害者虐待」の定義や判断に当たつてのポイント、取り組み課題について話して下さい、その後グループワークでは、虐待についての事例を用い、課題や解決・改善策を話し合いました。グループの中には、ベテラン・中堅・新人職員が入り混じっており、それぞれの立場からたくさん意見が出ました。グループ毎に発表があり、どの意見を聞いても勉強させられました。  
他事業所の方とも交流出来、有意義な時間を過ごせました。2日間学んだ事を今後の日々の支援につなげていきたいと思っています。(森本)



8年の間に餃子だけではなく、愛媛では道後温泉に浸かり、広島ではお好み焼きを、福岡では博多ラーメンを味わい、今年福井では海の幸を堪能してきました。  
ということで、毎年お盆休みになると六千四百字のレポートを作ったこと、義父がもう危ないという時にも全国大会に行ったことなど、いろいろ困難もありながら8回のレポーターとしての役割を終えることができたことはうれしくもあり、まだまだ未熟な活動と実践のレポートゆえの心残りもあります。  
わたしが担当させていた「地域・ネットワーク分科会」では、一緒にメインレポーターをしてくださった京都府北部与謝野町のよさの



## わされん職員研修会に参加して わたし達が変わるものは？

和歌山生活支援センター

9月8日〜9日にかけて、わされん職員研修会が、ホテルフリーゲート白浜で開催されました。このホテルでは障害のある人がたくさん働いて

「どうしたいの？」そんな疑問が投げかけられながら、子どもたちの新しい福祉制度が、今年4月から始まりました。

### 知的障害者・発達障害者

#### 2級ホームヘルパー養成研修

受講生12名 みんなよく頑張った!!  
祝ホームヘルパー2級養成課程修了!!

紀の川・岩出生活支援センター

7月13日から始まった知的障害者・発達障害者2級ホームヘルパー養成研修の修了式が9月25日に行われました。それぞれが「やり遂げたぞ!!」と自信に満ち溢れた様子で修了証明書を受け取る受講生の背中を眺めていると、受講生たちとバタバタと走り過ぎ去った夏の思い出がもう懐かしくおもいます。

開講当時、自分自身に自信がなく自分の氏名も十分に発音することも難しかった仲間が修了式では、突然の受講の感想発表でも堂々と「しんどかったけど楽しかった」と喜びの感想を述べ、講義や実習でたくさんの方々との関わり学び、色々と迷惑もかけた受講生たちが、ひとまわりも心だまわりも大きく育っています。

遠くから何時間も通学に時間をかけ計132時間の授業を受けきった何事にも粘り強い受講生、その場をパッと明るくすることが得意な受講生、何事にも興味や疑問を感じ質問を多く投げかけてくれる受講生、自分の気持ちや言葉を考えて考えて答えられる受講生、それぞれの個性や感性を生かすことができる養成



研修であったと思います。

最後に修了式で読み上げられた一通の祝電を紹介します。

「ヘルパー実習を終えられた皆さまへ。朝晩、涼しくなってきましたが皆さんお元気ですか。本日はヘルパー実習修了日ですね。皆さんおめでとうございます。実習で学んだ事を職場でいかせるように無理せず、頑張ってください。早く職場に慣れる事も第一ですが、あせらず、ゆっくり、自分のペースで頑張れば良いと思います。周囲の方々に気をつけてしまいかもありませんが、きっと職場の仲間はわかってくれると思います。応援してくれる方々は私を含めたくさんいますよ。最後に、一人ひとりにあめでどうと伝えられたのですが、家の都合でお目にかかれず残念です。またどこかでお会いできる日を楽しみにしています。」この祝電は障害者の理解をテーマにした授業で講師となってくれた前田佳代子さんからの祝電です。前田さんは、前川尚子著『九人の子どもたちとの歩み』の中で登場する九人のうちのおひとりです。

(野中や)

### 初めてのワークセッション

堺市こころの健康センターの家族会でメンバー3人が講演

エルシティオ事務局長の永井さんから創に一本の電話。「エルシティオに講演依頼があったんだけど、ちょっと日程が合わないの、創のメンバーどうかなあ?講師謝礼もくれるよ。」渡りに船とはこのことだなあと感じたのは、ちょうど2、3日前に創のメンバーたちに「依頼があれば自分の体験談を家族や関係者に話してみないか」ということを提案していたころでした。私はひ

加となりました!

秋津野ガルテンは小学校の旧校舎を活用した木造施設で、農作物の収穫体験やスウィーツ作り体験などができる、自然に囲まれた宿泊施設です。当日はスタッフが運転する車に乗り、途中のサービスエリアへ寄って、屋台で売っている食べ物などを食べたりしながら田辺へと向かいました。

秋津野ガルテンには午後6時前に到着し、夕食までしばらく時間があつたので各自の部屋で「ゴク」しながら、贅沢に時間を過ごしました(笑)。秋津野ガルテンの宿泊部屋はホテルなどの宿泊施設とは少し異なった内装になっているため、とても落ち着いて過ごすことができました。というのも、秋津野ガルテンの宿泊部屋は普通の家を再現したような内観になっていて、キッチンや(一般家庭の物と変わらないサイズの)洗面台やお風呂などがあり、まるで大自然の中に自分の家があるかのようにくつろいで過ごすことができました。

さてさて、そんなこんなで到着後に部屋でまったりと過ごした後はお楽しみ夕食タイムです!それぞれが好きなテーブルに着き、夕食では地元食材を使っていると思われる、お刺身やお漬物などをとてもおいしくいただきながら談笑したりと、大勢で楽しくご飯を楽しむことができました。夕食後も、楽しみはまだ続きます! 大部屋に全員が集まって『ふたば福祉会 たなかの杜』の沼谷さんから施設の紹介などをしてもらいました。説明してくれた後の質問タイムでは仲間たちやスタッフから色々な質問が出てきて、みなさん関心を持って聞いていたように思います。



続いては3つのゲームを行って得点を競い合う、班対抗のゲームです! 1人の人の服装を変えて、変える前後で服装のどこが変わったかを当ててもらおう「間違いない探しゲーム」、年齢順に人を並べ替える「年齢当てゲーム」、そして最後は出されたお題にあてはまるものを他の班より多く書き出してもらう「お題ゲーム」で盛り上がりました!!そして楽しいゲームが終わった後はお菓子を食べたりお酒を飲んだりワイワイしてその日を終わりました。

2日目は全員で朝食を食べた後、お菓子作り体験として『みかんゼリー』か『ロールケーキ』を作りました。両方ともおいしいみかんを贅沢に使ったスウィーツで、参加者全員が大満足のお菓子作り体験になったと思います。その後は地元食材を使ったバイキング形式の昼食を食べて解散。

最後は旧校舎の前で集合し、みんなで記念に「ハイ、チーズ!」参加してくれた仲間たち、スタッフ&ご家族の方全員にとつていい思い出ができました♪

(澤田)

### 『在職者交流』

#### 秋津野ガルテンでの1泊2日ワークショップ

「和歌山生活支援センター」と「つれもて」で行った秋津野ガルテン1泊2日ワークショップは、仲間たち、スタッフ&ご家族の、総勢23名の参

# 正〇班なかま旅行

くろしお作業所

9月13日、14日、くろしお作業所工〇班のなかま旅行がありました。今回は製品づくりを通じて交流のある古座川ゆず平井の里と田辺市のはまゆう作業所へ行って来ました。

1日目はゆずの里での陶芸やマーマレードづくり挑戦しました。粘土をこねて、湯呑みを作る予定でしたが出来上がりはこれ！湯呑み？と思わせるような作品もありましたがななまたちは陶芸の師匠に『上手や』と言われてうれしそうでした。

一方、マーマレードづくりでは、実際ゆずの里さんでゆずマーマレードを製造している職員さんに教えて頂き、これならゆずの里さんで売れるほど香り、味が良いマーマレードが出来ました。

2日目は田辺市のはまゆう作業所さんでの交流会でした。今か今かとくろしおのななまを待っていて、お互い自己紹介したり活動の内容を話したりして楽しい時間を過ごさせて頂きました。また、これは本当に偶然だったのですが南紀支援学校を退職された先生が



作業所へ買い物にこられ、工〇班で南紀支援学校を卒業したななま(2名)ばったり会い、昔話にはななを咲かせていました。

今回の訪問に際して、ななまたちは自分たちの活動や思いを書き、寄せ書きにしてみました。訪問先の皆さんも大変喜んでくれて、ゆずの里さんではレストハウスに、はまゆう作業所さんでは食堂兼事務所にはつくってくれました。楽しい思い出を胸に今度はくろしお作業所に来て頂ける事を約束して、楽しい旅は終わりました。(ゆずの里の職員さんたちは11月中旬大根をななまと一緒に収穫したいと来てくれます)(田中けい)

## 「結い」3期生の立山登山

はまゆう共同作業所「結い」

9月1日から2泊3日で北アルプスの立山に登ってきました。結いの活動の中で毎週木曜日は、心と体のストレッチ“で筋力トレーニングやストレッチを月曜日には近くの紀伊風土記の丘にウォーキングに行きます。その集大成として登山の取り組みを行います。1年目は大台ヶ原、2年目は北アルプスの立山に登ります。3期生も昨年、大台ヶ原を経験しています。立山登山は大台ヶ原での状況などをふまえて登山支援スタッフで十分検討してコースを決定しています。コースを歩き終えたあとの夕ごはんソフトクリームそして温泉は最高だったようです。

ところで立山は、いろいろな姿をみせてくれます。昨年は、台風により1ヶ月延期になり10月の立山となりました。悪天候の中をしつかりと歩き通した翌日は初雪のすばらしい景色をみ



ることができました。今年は、そのすばらしい立山の姿が一日目から訪れました。夕食時に外が時々明るく光り始めました。外にでてみると「わぁー、花火みたいやぁー。」と思わず誰ともなく言うつと見入っていました。それは富山平野の上空を稲光が走り、立山から見ると本当に花火のようなのです。皆ちよつと寒さに震えつつもケイタイでタイミングを計りながら写っていました。このような自然現象に遭遇できたことに感謝しています。

(市川み)

## もぎたて農産加工所から和歌山初!! 全国初!? 有機キウイジャムの誕生

けいじん舎もぎたて農産加工所



紀ノ川農協の一角で農産加工をしている、もぎたて農産加工所(就労継続A型出張所/従業員7名)です。紀州のめぐみである新鮮な果物・野菜でものづくり・人つなぎを合言葉に2011年8月から本格的に活動しています。農産加工の他に援農隊として農家の人たちのお手伝いなどをして地域が元気になる

## 秋空高く。。。。

くろしお作業所

10月5日(金)、紀の川市貴志川体育館において、第23回わかれん仲間の大運動会(北部ブロック)が開催されました。元々は、わかれん全体で行われていた大運動会(当時は田辺)ですが、和歌山は広く、参加することが難しい作業所も増えたのが理由で、数年前から1ブロック(岩出・橋本)・2ブロック(和歌山市・海南)が合同で、北部ブロックとして開催しています。今年は、参加人数も増え、約20事業所から仲間・職員・ボランティアを合わせると、450人を超える人が集まりました。

当日は、お天気にも恵まれ(といっても、室内ですが)、運動会日和の1日になりました。白組の選手宣誓をくろしおの仲間が担当することになって、緊張のひとときでもありました。体育館の舞台の上で、たくさんの人の前で話す機会も滅多にないので、いい思い出になったと思います。

競技は、OXゲーム、玉入れ、変身大作戦、パン食い競争、アームレスリング、ボールオンラケット、大玉ころがし、紅



白対抗リレー、フォークダンスと競技が続きます。変身大作戦(変装借り物競争)は、祭りのハッピーリズムのカツラ、そしてウエディングドレスという本格的な衣装まで。特に、ウエディングドレスは、着るのも四苦八苦でしたが、それでも、ゴールに向かって走っていく姿が印象的でした。花形競技である紅白対抗リレーは、毎年熱戦です。リレーを走る人だけでなく、応援する側の熱の入りはさすがでした。



競技の間には、普段はなかなか会えない友達と再会して、おしゃべりが弾んだりする光景があったり、また新しい出会いもあったり。年に1度のこういう機会を大切に過ごしていきたいと思いました。(道幸)

## 前号訂正

2012年8月号4ページ目の第二じか園の記事の筆者が高山さんではなく、岸田さんでした。お詫びして訂正致します。

ブログ (<http://mogitate.ikora.tv/>) より「もぎたて農産加工所でジャムを作ってるモモです。今日もジャムづくりしました。キウイを冷凍してるから皮を剥くのが大変 切るのも固いから腕が痛くなることも…手袋してるけど、指先の感覚がなくなることも…だけど、楽しいです。炊くのも大変 特にあくとりが。瓶詰めも大変です。でも、ジャムづくりはすごく楽しいです。自分たちでつくったジャムが売れるのすごく嬉しいです。美味しいジャムをたくさん作るので皆さん食べてみてください。本当に美味しいですよ。モモでした。」

## 介護保険利用のお手伝いをします

高齢者地域生活支援センター

高齢者センターでは介護保険の「居宅介護支援事業」を行っています。  
介護の相談、申請など手続きの代行、介護サービスの計画の作成などを行います。  
介護の手続きの必要なときは、市役所などに出向いていただかなくても、相談いただければ代行することができます。

また、実際に介護サービスが必要なときは、事業所の紹介やサービスの計画をいっしょに作っていく仕事もしています。どうぞお気軽にご相談ください。

これ以外に高齢者センターは、だれでもいつでも出入りできる施設です。グループで趣味の活動をしたり、1人でお茶を飲みに来たりなど、自由にご利用ください。また、金曜日の午前中は、介護予防の体操も行っています。

詳しいことは、当センターにお問い合わせください。

電話 073-472-8549 F A X 073-472-8563



## ふりけとまぐさだけい

作・演出/ジェームス三木  
公演/シアター青芸

2012年 12月1日(土) 開場 13:00/開演 13:30  
粉河ふるさとセンター  
12月8日(土) 開場 13:00/開演 13:30  
田辺紀南文化会館  
12月9日(日) 開場 14:30/開演 15:00  
和歌山市民会館 大ホール

感動の舞台を是非ご覧下さい

お問い合わせ：実行委員会事務局 073-427-3313(麦の郷)  
※開催地ごとにチケットの料金が異なります。実行委員会事務局でご確認下さい。

## 助成ありがとうございました

はぐるま共同作業所 製菓事業部

共同募金会様より助成いただき、脱気シーラーを購入しました。今までよりもシール部分が太くなり、しっかりとできるようになり、作業がしやすくなりました。

ありがとうございました。

## 総合警備保障株式会社

ALSOOK 様

御社内において定期的なパン等の物品販売等のご支援いただきありがとうございます。

これからもよろしく願います。

けいじん舎



はぐるま共同作業所  
宮本 英和

こんにちは。はぐるま共同作業所は、製パン、製菓、自立訓練の結い、そして出張所のきっちん翔から成る多機能型施設です。私が所属している製パン事業部は、御多分に漏れず早朝からの作業。普段から4時頃に出勤する仲間もいれば、小旅行の如く時間をかけて出勤する仲間もあり、各個人の思いやペースを考慮しながら取り組んでいます。また、日々の取り組みでスタッフ以上の意識や責任感を見せてくれる仲間、はたまたま血圧が上がりそうな課題や問題を提供してくれる面々…各個人の活躍するフィールドもまさに多機能です。様々な思いに接する度に、麦の郷の歩んできた道程と照らし合わせ、その度に新たなことに気付かされます。

閑話休題、皆様におかれましては、様々な思いを紡いだはぐるまの味覚をぜひ御賞味頂き、時節柄“天高く馬肥ゆる秋”を容赦なく実践して頂きたい次第です。